歴史講座

# 発掘された西三河の城

平成31年2月23日（土）

会場：愛知県青年の家

資　料

# ごあいさつ

このたび、愛知県埋蔵文化財センターと岡崎市教育委員会では、平成31年2月23日に愛知県青年の家を会場として、歴史講座を開催することとなりました。

西三河地方では、室町時代から江戸時代にかけて、山城から平城まで多くの城が築かれます。今回の講座では「歴史講座　発掘された西三河の城」というタイトルで、西三河に所在する城のうち、発掘調査が実施された岡崎市と豊田市の4遺跡についてご報告いたします。また同時に、遺跡から出土した内耳鍋についての報告や土器などの展示もおこないます。

今後、これらの遺跡の調査成果が多くの方々に知られ、さらには埋蔵文化財保護に寄与する事を願っております。

最後になりましたが、今回のイベントを開催するにあたり、各方面の方々にご高配を賜るとともに、関係者および関係機関のご理解とご協力をいただきました。厚くお礼申し上げる次第です。

平成31年　2月　23日

公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

岡崎市教育委員会

# 目次


城山城跡（豊田市足助町）　永井邦仁（愛知県埋蔵文化財センター）…… 2

矢並下本城跡（豊田市矢並町）　池本正明（愛知県埋蔵文化財センター）…… 4

西三河の内耳鍋　鈴木正貴（愛知県埋蔵文化財センター）…… 6

岩津新城跡（岡崎市岩津町）　中根綾香（岡崎市教育委員会）…… 8

岡崎城跡（岡崎市康生町）　山口遥介（岡崎市教育委員会）…… 10

＊休憩中に映写していたものは , 以下のものです。

**岡崎市教育委員会　視聴覚ライブラリー作成の「岡崎城　～新しい発見をもとに、歴史をたどる～」**

この映像は「愛知県生涯学習情報システム　学びネットあいち」の以下のページ　にて公開されています。
また、他にも多数の Web 教材が投稿されています。どうぞお役立てください。

https://www.manabi.pref.aichi.jp/search/searchdtl.aspx?stdycd=17100005


愛知県生涯学習情報システム
学びネットあいち
学びネットあいちは、生涯学習情報を総合的に提供するシステムで、動画などの学習教材も提供しています。

「学びネットあいち」は公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団が愛知県教育委員会から委託を受けて運営しています。



公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県生涯学習推進センター
〒 460-0001　名古屋市中区三の丸三丁目２番１号
電話：052-961-5333

しろやまじょうあと

# 城山城跡

愛知県豊田市足助町城山・引陣ほか

調査面積　4,400 ㎡

調査期間　2000 年 11 月～ 2001 年 3 月
2001 年 10 月～ 2002 年 3 月

愛知県埋蔵文化財センター　永井邦仁

城山城跡では、主郭（しゅかく）から南と南西方向に伸びる 4 つの尾根筋で発掘調査が行われ、それぞれで特徴的な遺構（いこう）が検出されています。堀は断面形で箱堀（はこぼり）と薬研堀（やげんぼり）に分けられ、概ね後者が新しい時期だと考えられます。出土遺物の時期は、古瀬戸（こぜと）後Ⅳ新段階～大窯（おおがま）第 3 段階（15 世紀後葉～16 世紀後葉）が中心で、その時期に山城が機能していたと考えられます。またその間に 01B 区では、掘割状通路（ほりわりじょうつうろ）だったところに平場（ひらば）を造成しており、大規模な改変のあったことが明らかになりました。

00A区の横堀（00A区SD01）

00B区の腰曲輪と掘立柱建物跡

01A区の切岸と横堀（01A区SD10）

01B区の横堀（01B区SD09）

やなみしもほんじょうあと
# 矢並下本城跡

愛知県豊田市矢並町桑原田

調査面積　4,500 ㎡　　調査期間　2001 年 6 月～9 月

愛知県埋蔵文化財センター　池本正明

矢並下本城は豊田市矢並町に所在する山城です。発掘調査は東海環状自動車道路建設に伴う事前調査で、平成 13 年 6 月から 9 月にかけて実施しました。調査面積は 4,500 ㎡ですが、調査区は南北に尾根を持つ山頂の平坦部に該当しており、城の中枢部分をほぼ完全に調査した事例として注目できます。

検出された遺構（いこう）は大きく二時期に区分でき、丘陵頂部の平坦部分に柵列（さくれつ）をめぐらした I 期と、平坦部分を整地して南北に堀切（ほりきり）と土塁（どるい）を設け、平坦部に建物が設置した II 期に分かれます。II 期の遺構についてはさらに二つに細分され、土塁や堀切が整備され本格的な防御を固めた II-1 期と、平坦部北側を整備した II –2 期に分けられます。年代的には I 期が 14 世紀、II 期は 15 世紀と考えられますが、16 世紀まで存続していた可能性もあります。

◀　遺跡遠景

矢印が調査区。
現在は東海環状自動車道の鞍ケ池パーキングとなっている。
中央の池の周辺に豊田市鞍ヶ池公園が拡がる。

I 期の遺構

II 期の遺構

0　(1:1200)　20m

主要遺構の変遷

曲輪 1

曲輪 1 の建物群

# ● 西三河の内耳鍋

愛知県埋蔵文化財センター　鈴木 正貴

東海地方の土器鍋類は、縄文時代以降ほぼ常に丸底の酸化炎焼成の土師器で作られました。戦国時代になると、湯沸かし専用の釜が登場し、大型の鍋（羽付鍋いわゆる羽釜）と小型の鍋（内耳鍋）と釜の３器種に機能分化します。この中で特に、内耳鍋は上半部の形状から①くの字形内耳鍋と②半球形内耳鍋と③内彎形内耳鍋に分けられます。西三河では、当初は東三河・遠江のくの字形内耳鍋が使われますが、すぐに尾張の半球形内耳鍋と、くの字形と半球形を折衷した内彎形内耳鍋に変わります。この複雑なあり方が何を意味するのかが大きな課題です。半球形＝織田、くの字形＝今川、内湾形＝松平とすると、話は面白いのですが、実際にはそう単純に変化したわけではなさそうです。

## 豊田地域の土器鍋類の編年表　『愛知県史５考古５』から作成

1：天神前遺跡 SE01
2：郷上遺跡 SE21
3：郷上遺跡 SE54
4：郷上遺跡 SK304
5：郷上遺跡 SE76
6, 7, 12：郷上遺跡 SD094
8：今町遺跡Ⅱ SK1732
9：郷上遺跡 SD081
10, 11：今町遺跡Ⅱ SK1747
13～15：郷上遺跡 SD090
16, 17：今町遺跡Ⅱ SD11
18 郷上遺跡 SD088
19～21 郷上遺跡 SD093
22, 23, 26：今町遺跡Ⅱ SD10
24, 25：今町遺跡Ⅱ SD24
27：今町遺跡Ⅱ SK312
28：今町遺跡Ⅱ SK733
29：今町遺跡Ⅱ SK463
30～33：今町遺跡Ⅱ SK314
34：今町遺跡Ⅱ SD25
35～37：今町遺跡Ⅱ SD08

いわづしんじょうあと
# 岩津新城跡

愛知県岡崎市岩津町新城

| 調査面積 | 調査期間 |
|---|---|
| 2,100 ㎡ | 2007 年 9 月～11 月 |
| 1,600 ㎡ | 2018 年 6 月～10 月 |

岡崎市教育委員会　中根綾香

岩津新城は岩津町字新城に所在する中世城館で、矢作川東岸の台地縁辺に位置します。平成19・30 年度に発掘調査が実施され、大規模な堀と土塁が確認されています。岩津新城は「岩津七城」とよばれる城館群のひとつで、松平氏が松平郷から岩津への進出以後、安城・岡崎を本拠とするまでの間の軍事拠点として機能しました。また、周辺には岩津古墳群や車塚遺跡などの集落遺跡・古墳が数多く所在し、岩津新城でも中世に城館が築かれる以前から弥生時代以来の集落が展開していたことが確認されています。

**岩津七城について**

岩津には「岩津七城」の伝承があり、本城である岩津城を取り囲むように城館が配置されていたと伝わります。これらは 15 世紀の松平（三代）信光一族の居館群と考えられますが、中世の史料には「岩津七城」の表現はみられず、それぞれの城館の位置や時期については明確ではありません。

**家康時代の岩津**

16 世紀初頭に岩津惣領家が滅亡すると、岩津は周辺情勢に応じて岡崎城の北方の守りとしての役割を果たしました。岩津城はその縄張りから戦国時代末期の改修と考えられており、岩津新城も同時期に改修を受けているとみられます。これらは天正 12 年（1584）の小牧・長久手の戦い以前もしくは天正 13 年の石川数正出奔後の徳川家と豊臣家の緊張関係の中で、岡崎城の改修とあわせて家康の命令によって行われたと考えられます。発掘調査で確認された大規模な土塁と堀はこの時期の遺構の可能性がありますが、遺物の出土状況が良好でなく、時期の特定には至っていません。

岩津新城全景（南東から）

**平成 19 年度調査成果**

主郭南半分を調査範囲とし、主郭（しゅかく）の東側から南側に巡る堀と土塁の記録調査が行われました。堀底から土塁の上までの高さは８ｍを測り、堅固な城郭（じょうかく）であったことが明らかとなりました。主郭内の建物跡は明確ではありませんでしたが、土塁構築以前の遺構は多数検出され、弥生時代～古代の竪穴建物跡（たてあなたてものあと）や古墳時代～中世の掘立柱建物跡（ほったてばしらたてものあと）、中世の火葬墓（かそうぼ）等が確認されました。

**平成 30 年度調査成果**

主郭北半分を調査範囲としており、主郭北側の堀の南肩と土橋（どばし）が確認されました。本来は堀の内側に土塁が巡ると考えられますが、削平を受けており、土塁下層で弥生時代～古墳時代の遺構が確認されています。主郭内では土橋南側に柵列（さくれつ）、掘立柱建物等が検出されました。

調査区航空写真（H19・H30 合成）

おかざきじょうあと

# 岡崎城跡（天守台石垣）

愛知県岡崎市康生町

調査面積　16 ㎡　　調査期間　2018 年 8 月～ 9 月

岡崎市教育委員会　山口遥介

岡崎市教育委員会では「岡崎城跡整備基本計画 - 平成 28 年度改訂版 - 」（H29.3）に基づき積極的に調査研究を進めています。

図１　本丸付近の絵図（水野家時代）

**【発掘調査の目的】**

○城内で最も古い石垣と目される天守台石垣の基礎構造の解明を目的とした調査です。

**【天守・天守台概要】**

○天正 18 年（1590）に徳川家康の関東移封に伴い岡崎城主となった田中吉政が城郭拡張、城下町建設をするとともに天守台及び天守（初代）の造営を行ったとされます。

○天守は元和 3 年（1617）に再建されたとされ（2 代目天守）、その際に天守の東に井戸櫓を、南に付櫓を設ける複合式の天守となったとされます。この時の天守は三層三階、地下一階とされます。

**【調査成果】**

トレンチ１

**①天守台石垣の根石**

地表面から約 1.0m下層で根石の下端部を確認しました。根石には大小ありますが、最も大きなものは横 2.0m 以上、高さ 0.9mの巨石で、これは天守台石垣の鏡石を除く築石の中で最大級といえます。

図２　調査区配置図（着色：天守台石垣、犬走り下石垣）

写真１　トレンチ１全景（南から）

写真２　整地層出土遺物（土師器皿）

**②石垣下層の整地層**

根石下層に地面を整地した痕跡（整地層）を確認しました。整地層は土を人為的に敷きならした層で、厚さは少なくとも 50 ㎝以上に及びます。この整地層の上面から掘り込んで根石を据えています。根石を据えた後に根石手前に拳大の円礫を敷き詰めています。整地層の上層から瀬戸・美濃産の陶器（天目茶碗）や多くの土師器皿の他、貝殻類、魚骨等が出土しました。

**③礎石**

根石の手前で礎石を２基確認しました。礎石は石垣に平行して配置されています。根石からは1.2mほどしか離れていません。礎石は石垣構築に際しての整地層上面から掘り込まれているため、石垣構築と同時期に据えられた可能性があります。

礎石は他にも周囲に残存する可能性があるため、今回の調査範囲では建物の全容を復元するのは困難ですが、天守台に近接し何らかの建物が建っていた可能性を示す遺構として貴重です。

写真３　礎石

トレンチ２

**①石組溝**

天守台石垣の北西隅部にて石垣の手前に石組溝を確認しました。また石組溝に水が流れるように石垣根石付近を三和土により覆っています。またこの三和土は犬走り全体に広がる可能性もあり、天守台北面、西面の犬走り部分に排水機能が必要であったことが想定されます。石組溝の石材には小型の矢穴痕が認められること等から天守台石垣構築後の江戸期の改修と考えられますが、当該地での改修の履歴は史料からは知られず、詳細な時期は不明です。

写真４　トレンチ２全景（北西から）

トレンチ３

**①石組溝**

天守台石垣北面の鏡石の手前に調査区を設定しました。トレンチ１同様、石垣下層で整地層が確認されました。鏡石は埋没部を含めると高さ2.0m以上にも及ぶ巨石を使用しています。

石垣前面にはトレンチ２同様に石組溝が確認されましたが、使用する石材は古相を示すことからトレンチ３の石組溝とは構築時期に差が存在する可能性もあります。石組溝は井戸櫓北西隅の石組溝（現在も露出する）に接続するものと考えられます。調査区内から三つ葉葵紋金箔瓦（小菊瓦）が１点出土しました。徳川家に関する施設に使用されたと考えられ、二の丸上洛御殿や本丸東照宮などに使用された可能性があります。

写真５　トレンチ３全景（北から）

写真６　三つ葉葵紋金箔瓦

城山城跡と周辺の主要な城館

矢並下本城跡と周辺の主要な城館

「国土地理院　電子地形図 25000 より」

岩津新城跡と周辺の主要な城館と遺跡

岡崎城跡と周辺の主要な城館

「国土地理院　電子地形図 25000 より」

# 遺跡の位置

公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
URL　http://www.maibun.com/top/
〒498-0017　弥富市前ケ須町野方 802－24
電話　0567-67-4163

＊今回の発表のほか、当センターが行なってきた遺跡の調査報告書などがご覧いただけます。
報告書掲載写真のデータベース「遺跡アルバム」もご覧ください。

岡崎市教育委員会 社会教育課
URL　http://www.city.okazaki.lg.jp/1300/1304/1332/index.html
〒444-8601　岡崎市十王町 2 丁目 9 番地
電話　0564-23-7270

＊今回の発表のほか、平成 26 年度から続く岡崎城の発掘調査情報は、上記のページよりご覧いただけます。どうぞご活用ください。